

1 研究主題

自ら学び、豊かに表現する児童・生徒の育成
～ 課題・他者・自己と対話する授業づくりを通して ～

2 研究主題について

甲田小学校、甲田中学校は緊密に連携しながら、9年間を見通した教育を推進してきた。今年度はその一環として主に以下の2点を共通の取組とし、甲田教育の充実を図る。

1. 研究主題の設定

現在、Society 5.0 を迎える社会で、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの基盤をしっかりと固め、社会を生きる力をつけることが求められている。昨年度まで、「課題設定の工夫」と「学び合い」の授業を通して、主体的に課題を発見し、解決する児童の育成をめざして研究を行ってきた。「学び合い」が自然発生的に始まるほど、児童・生徒に浸透してきた半面、依然として発言のない児童や学びがなかなか深まらない実態があることが課題となった。その要因として、課題の理解や読解力、コミュニケーション力や表現力の不足、集中力を継続することの困難さなどが考えられる。

そこで今年度は、研究テーマを「自ら学び、豊かに表現する児童・生徒の育成～課題・他者・自己と対話する授業づくりを通して～」に設定する。「対話」することをキーワードに授業づくりを進めていくことで、研究を深めていく。

「対話」とは

「課題との対話」・・・課題を発見する、課題を読解する、課題にじっくり向き合う

「他者との対話」・・・コミュニケーションする、話をしっかり聴く、考えを話す

「自己との対話」・・・自己理解、主体性、既習・経験・体験を生かす

2. 研究主題達成のための2つの重点取組

(1) 児童・生徒が「自ら学び、豊かに表現する」と捉える具体的な姿<研究推進の観点>

①「分からない」「教えて」と児童・生徒が言えている姿

②児童・生徒が課題解決に向けて考えている姿

③論理的に、根拠を明確にして表現している姿

④振り返りの記述や発言の中に、自分にとって新しい見方や考え方が見られる

上記の4つの視点を、指導案の中に位置づけると共に、全教職員が意識統一して日頃の授業づくりに取り組む。また研究授業においては、年間を通して上記の4つの姿が見られたかどうかを指標とし検討することで、継続して、また焦点化して授業改善を行う。

この取組を小学校、中学校で統一し、また甲田小中合同研修会では小学校教員と中学校教員が共に参加することで、更なる効果が上がると考える。

(2) 対話する授業づくり<授業改善の観点>

①課題を全員が把握するための導入の工夫、ペアやグループでの学び合いの活用を行う。

また、個々の読解力の育成にも取り組む。

②各学級の実態に応じてペア・グループ(4人を基本)を設定する。「学び合い」が円滑に行われ、全員が授業に参加できるよう、各学級の班編成、席決めの際には意図的な配置をする。さらに、話の聞き方について全体で共有していく。

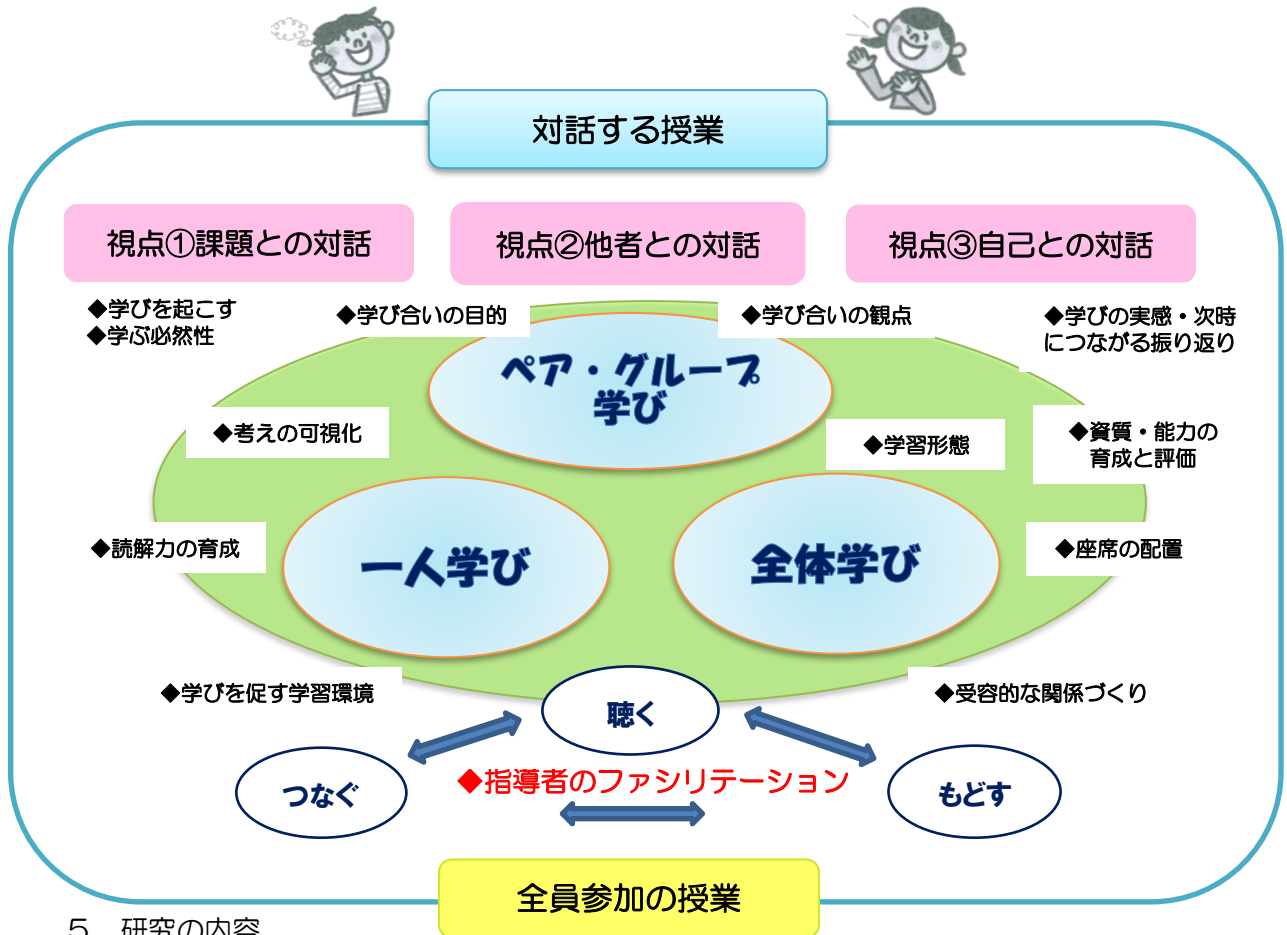
③自分でじっくり考える機会も意図的に仕組み、どのような意見や考えでも受容される授業づくり、学級づくりを進める。

3 研究仮説

個々の読解力の育成に取り組む、課題設定や提示を工夫して、児童・生徒が明確に課題を把握し、受容的な雰囲気の中で、自らの意見や考えを伝えて「学び合い」を進めていくことで、自ら学び、豊かに表現する児童・生徒を育成することができるであろう。

4 研究の構想

自ら学び，豊かに表現する児童・生徒の育成
 ～ 課題・他者・自己と対話する授業づくりを通して ～



5 研究の内容

視点1 課題との対話

- 課題を全員が把握するための課題設定や導入の工夫。(1単位時間・単元)
- 児童の思考の流れを想定し，単元のゴールイメージを明確にした単元構成
- 読解力の育成

視点2 他者との対話

- 受容的な雰囲気の中で自分の意見や考えを伝えあえる学習形態の工夫
- 学び合いの目的、思考の視点の明確化
- 思考を深め，可視化する「思考ツール」の効果的な活用

視点3 自己との対話

- 育成したい資質・能力の共有
- 身に付いた資質・能力を自覚化させる振り返り
- 学んだことを自覚し次につながる振り返り

6 検証指標及び検証の方法

検証指標	達成目標	検証時期	検証方法
国語科・算数科における単元末テスト到達度平均	80%以上	R2年 8月 R2年 12月	国語科・算数科単元末テスト
主体的な学びに関する質問	肯定的回答が1学期より増える	R2年 7月 R2年 12月	学校独自アンケート （「基礎・基本」定着状況調査の質問項目を参考にしたもの）
思考力に関する質問			
表現力に関する質問			